



MISATO

第10号

2007.1.19

美郷町

議会だより

「美郷がいちばん、好きです美郷」



(仙南中学校相撲場)

相撲連盟の初げいこ

新春一番 はっけよい！
若者たちの活気と
子どもたちの元気が
元旦の土俵にみなぎります。
2007年 美郷町
熱く晴れやかなスタートです。

主な内容

- | | | |
|-------------|--------|------|
| ●7年連続全国大会へ | 六中吹奏楽部 | 2～3 |
| ●特定農業団体育成事業 | 主な議案質疑 | 4～5 |
| ●住民と議会との懇談会 | | 6～7 |
| ●町政を問う | 一般質問 | 8～14 |
| ●研修報告 | | 15 |
| ●心も体もすっきり | キラリ美郷人 | 16 |



THE 35th
MARCHINGBAND & BATONTWIRLING
CONTEST IN TOHOKU 2006

六中吹奏楽部

マーチングで 7年連続全国大会へ

平 成18年度一般会計
補正予算では、歳
入歳出それぞれに6千2
05万3千円を追加し、
補正後の予算総額を11
8億4千251万5千円
としました。

主な内容は、六郷中学
校吹奏楽部が7年連続で
マーチング全国大会に出

場する経費や、障害者自
立支援法の施行に伴う予
算の組み替え、農業夢プ
ラン応援事業費補助金の
増額などです。

議 会では、この補正
案と平成20年度か
ら75歳以上の高齢者医療
保険制度を創設するため
の議案『秋田県後期高齢

12月定例会を、 12月
12日から15日までの4日間の会期で
開きました。審議した議案は、平成十
八年度一般会計補正予算など16議案。
そのすべてを、原案の通り可決・同意
しました。一般質問には6議員が登壇
し、町政をただしました。



年頭の挨拶

美郷町議会議長
伊藤福章

新年あけましておめでとうございます。

今年、大雪に見舞われた昨年に比較し穏やかな中で新年を迎えることができました。

特に今年、地方経済の伸展と安全、安心な社会になっていただくことを願うものであります。

先般、〇七年度の国の予算である財務省原案並びに政府案が示され、三位一体改革の中で町の予算も昨年にも増して厳しい編成になることが予想されております。事業の遂行に当たっては町民の一層のご理解とご協力を願うものであります。

今年の干支は「亥」年。猪は、猪突猛進という言葉があるように、力強さの象徴であり、平均5・

6頭の子を産む多産であることから家族繁栄をもたらす縁起のよい動物として人々に親しまれていますが、一方では大災害の起きる年でもあるといわれております。

かつては、平成七年の阪神大震災、昭和五十八年の日本海中部地震、それ以前は関東大震災も亥年に発生しております。

美郷町においても、千屋断層を震源とした陸羽地震など過去に発生していることから心配される場所でもあります。

災害は、忘れた頃やってくるといわれておりますが、今年の亥年だけは災害のない、明るい話題の多い一年になることを願う年頭の所感とします。



7年連続全国大会出場をきめた東北大会より

者医療広域連合の設置について』を賛成多数で可決し、その他の議案はす

後松順之助氏の 教育委員に同意

教育委員に同意

今 定例会では、後松順之助氏（本堂・東部）を教育委員に任命することに同意しました。これは、12月11日付で高橋福雄教育長が辞任したことに伴うもので、12月20日開かれた教育委員会において、教育長に互選されていきます。



後松順之助氏

なお、後松氏は角館中学校長を辞しての任用です。

また、定例会初日、各常任委員会に付託された6件の陳情は、5件が全員賛成で採択となり、1件が継続審査と

べて全員賛成で可決しました。

なりました。

以下、本会議での主な質疑を4〜5Pに、10月に行われた『住民と議会の懇談会』の模様を6〜7Pに、一般質問を8〜14Pに掲載します。なお、12月定例会で可決した議案の概要は、広報『美郷』1月号にも掲載させていただきます。合わせてご覧ください。



特定農業団体育成事業 60組織を目標に

■秋田県後期高齢者医療広域連合について

泉美和子議員 広域連合の、議員定数の配分は公平か。各町村の意思は反映されているのか。
住民生活課長 合併後の市町村は25となっているが、議員定数は24となっており、県の事務局ではバランスのとれた選出方法を考えているようだし、一本の組織になるので連携は図られる。

■反対論

泉美和子議員 広域連合は国の制度のもとでの設置とはいえ、高齢者の保険料の値上げを招き、住民参加ができない制度なので賛成できない。

■指定管理者の指定について

武藤威議員 指定管理者の責任は。
商工観光課長 責任は生ずる。今回の指定に当たっては、責任を確保できるか申請内容を判断してい

る。

◇ 吉野久議員 今回3年の指定期間のようだが、温泉施設の経営統合は。
◇ 商工観光課長 現在統合に向けての調整をしている。統合が決まれば、指定期間はそれまでだと指定管理者には伝えている。

◇ 鈴木一議員 アクティセクターの指定期間は一年だが、なぜか。
◇ 農政課長 現在建設中の堆肥センターと一体的な運営をするためだ。

■一般会計補正予算

中村美智男議員 特定農業団体育成事業補助金の内容は。また今回の農業夢プラン事業の内訳は。
農政課長 当初は20組織分を予算化していたが、その後立ち上がる予定の40組織に対する補助だ。夢プランの内容は、トラクター3台、コンバイン1台、大豆用コンバイン

2台、直播田植機3台だ。

◇ 鈴木一議員 農地流動化推進事業費補助金の内容は。
◇ 農政課長 三井寺集落に対する国の補助金で、10a1万円の30ha分である。農機具の購入などに当て

られる内容だ。

◇ 吉野久議員 地方交付税の留保分があるのか、額の決定はいつか。
◇ 総務課長 留保分は、現在1億3000万ほどある。額の決定は5月頃だ。



りんどう栽培の様子

主 議 質
な 案 疑

一般会計
補正予算



健康講座より



熊谷良夫議員 修繕費の内容と雁の里温泉掘削の状況は。商工観光課長 あったか山のメーター機の修繕費だ。温泉掘削は業者選定の事務作業を進めている段階だ。

反対討論

武藤威議員 秋田県後期高齢者医療連合に関連した補正予算なので反対する。

賛成討論

熊谷良夫議員 国保は安定した保険制度になることが望ましい。そのため
の広域連合は進めるべきで、補正予算は賛成だ。

賛成討論

吉野久議員 補正予算は、今必要なものが計上されている。町政の滞りを防ぐためにも賛成する。

農業集落排水
特別会計

吉野久議員 17年度実施事業の公債費が、なぜこの12月定例議会に出てくるのか。

総務課長 当初予算に比べて、入札などで事業費は変動がある。そのため地方債の借り入れ額や時期、利子の確定時期がずれ込み、今回の計上となった。

審議された議案

- 議案第71号 秋田県後期高齢者医療広域連合の設置について
 - 議案第72号 秋田県市町村総合事務組規約の一部変更について
 - 議案第73号 秋田県市町村会館管理組規約の一部変更について
 - 議案第74号 美郷町長継続契約を締結することができる契約に関する条例の制定について
 - 議案第75号 美郷町職員の勤務時間、休日、休暇等に関する条例の一部改正について
 - 議案第76号 指定管理者の指定について
 - 議案第77号 指定管理者の指定について
 - 議案第78号 指定管理者の指定について
 - 議案第79号 指定管理者の指定について
 - 議案第80号 平成18年度美郷町一般会計補正予算第5号
 - 議案第81号 平成18年度美郷町国民健康保険特別会計補正予算第3号
 - 議案第82号 平成18年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算第3号
 - 議案第83号 平成18年度美郷町下水道事業特別会計補正予算第4号
 - 議案第84号 平成18年度美郷町農業集落排水事業特別会計補正予算第3号
 - 同意第1号 美郷町教育委員の任命につき同意を求めることについて
- ※その他専決処分案1件

活発に 意見交換



金西コミュニティセンター



六郷交流センター

10月26・27・30日の3日間にわたり、町内9会場でおこなわれた『住民と議会との懇談会』の詳細、その後の議会活動をご報告します。

広報・広聴が大切

合併した美郷町が、限りある財源の中でより良いまちづくりをおこなうためには、住民への広報・広聴が大切です。

また、住民代表の議会は、共通の認識で町づくりの課題や住民の声を把握していなければなりません。

美郷町議会は、地域に向いて町政や議会活動の状況を説明し、町や議会に対する提言・意見や要望を直接聞き取る『住民と議会との懇談会』を、10月26・27・30日の3日間にわたりおこないました。

県内初の試み

この議会活動は、美郷町ではもちろん、秋田県内でも初めての試みです。町民も不慣れなせい、3日間にわたった延べ9

会場での参加町民は33人でしたが、どの会場も活発な意見交換のうちに終了しました。

早急に熊対策

懇談会場で話し合われた事項は、合わせて45項目にのぼりました。いずれも大切な提言・意見や要望でしたが、その中で、熊による果樹被害は早急に対応しなければならな

い問題でした。議会では、11月2日、松田町長と担当職員同行で現場視察をおこない、被害状況を勘案して捕獲檻の購入と、住民の安全対策を要望しました。

●主な町への要望と回答（要約）

◆熊の捕獲檻の増設。

◇既存の2基に1基追加する。

◆一ツ屋・四天地・四ツ屋・七滝方面への早急な水道敷設。

◇国に事業費の増額を要望し努力する。

◆河川内の葦などの除草。

◇管理する仙北地域振興局河川防災課へ要望する。

◆角六線・塚地域の道路改良。

◇7月県に要望し現地踏査がおこなわれたが、再度要望する。

◆除雪時、路肩の破損や田圃への土砂流入に留意。

◇毎春のご迷惑に深謝し除雪運転員に指導する。

◆分庁方式での各庁舎間の連絡を密に。

◇住民ニーズに対応できる指針を作成する。

◆町内2つの駅の有効活用。

◇飯詰駅でレンタサイクル事業を実施。今後も有効施策を検討する。

◆湯とびあ雁の里温泉に宿泊施設を。

◇町内3温泉施設の機能と運営を勘案し艱難。今後特徴付けを検討する。

◆役場職員の住民対応の改善。

◇12月5日、規律や遵守事項の再確認で勤務状況調査を実施。今後接遇研修を計画。

◆六郷東根小グラウンドのトイレ改修。

◇プライバシー保持のため仕切設置を決定。全面改修は検討課題。

◆給食食材は地元食材を優先に。

◇これまでも使用。今後も多様な食材提供を望む。

◆街灯の設置。

◇周辺の地権者の同意を得、行政協力員を通じて設置要望を。

◆子供医療への町独自の支援。

◇未就学児童まで、本年2月から所得制限を撤廃し町単事業で負担。

●他機関への要望と回答（要約）

◆用水路の整備。

◇七滝土地改良区より、事業採択の回答あり。

◆トレセンの休日を日曜から月曜日へ。

◇トレセンより、宿泊施設を完備し休日は年末年始のみの回答あり。

●その他話し合われた主な事項（要約）

◆水と環境保全に行政・住民が取り組むべきだ。

◇来年度、農地・水・環境保全対策で共同活動への支援制度開始。

◆企業誘致に努力を。

◇進出可能な環境づくりに努力する。

◆集落営農の取り組み状況は。

◇千畑地区20地区、仙南地区2地区が組織を設立。今後も推進する。

◆行政区の再編は強制か。

◇あくまで住民の意向を尊重する。

◆合併のメリットは。

◇経費の削減などが依然財政は苦しい。合併を、町民と行政が同じ危機感を抱きまちづくりに取り組む契機としたい。



熊被害の現場視察



熊の捕獲オリ

継続して実施

今回の試みは、より良いまちづくりに向けた議会活動の一環です。また、町の課題や住民の声を共通認識する活動です。11月20日、その目的を果たすための懇談会総括会をおこないました。今

回、3班に分かれた会場での懇談内容を報告しあい、町への要望事項を確認しました。そして、参加者が増加する手段を工夫し、来年度以降も継続して実施することを決めました。

6人の議員が一般質問

町政を問う

今定例会の一般質問では、6人の議員が登壇し、町長に施策を尋ねました。

以下、主な質問と答弁を要約してお知らせいたします。

○質問者

武藤	威	議員
戸沢	藤一	議員
吉野	久	議員
深沢	義一	議員
鈴木	良勝	議員
泉	美和子	議員

職権保護の体制は

窮迫保護する場合がある

武藤 威議員

①働いても、収入が生活保護基準以下であれば受けられるか。
 ②生活に必要な電話や電気製品、自動車などを持っている場合には生活保護を受けるに当たって保
 有できる条件は。
 ③通勤用、事業用など保有が認められている場合、自賠責保険や任意保険、自動車税など、必要経費の対象になるか。
 ④ルームエアコンの保有は認められるか。
 ⑤貯金や生命保険をどうするかは、自分にとっての生活維持に効果的で、自立助長に役立つか

はそれぞれの世帯によって違うと思うが見解は。
 ⑥田畑や山林などをもっている場合、処分などの条件は。
 ⑦住宅ローンのある世帯の適用は。
 ⑧交通事故の補償金や保険金が支給された時、「自立助長」の分としてどこまで認めるのか。
 ⑨餓死や孤独死の対策で、申請がなくても生活保護を適用する職権保護はないものか。
 ⑩生活保護の葬祭費について、香典は地域社会の貸し借りのような性格をもって、常識はずれの高額な場合以外は、

収入認定から除外すべきではないか。

町長

①生活保護は受けられる。就労収入の場合は、収入金額に応じた控除の認定なので、実際の認定額は収入額よりも少額となる。
 ②すべての家庭に普及している電話や電気製品は、保有して構わない。自動車は原則として認められないが、事業用としての活用、障害者の通勤用、山間僻地など居住者の通勤用、障害者の通院、通所及び通学用という要件に合致した場合、認めることもある。
 ③必要経費の対象となる。このほか通勤用自動車の燃料代も対象になる。
 ④認めている。
 ⑤多額の預貯金や生命保険の解約返戻金があれば、生活費に回してもらい、それから生活保護を受けてもらう。
 預貯金は保護開始月の

最低生活費の5割相当額を資産から除外している。生命保険は、解約返戻金が最低生活費の3ヶ月分以内であれば、保有を認める場合もある。
 ⑥処分可能な田畑や山林は、原則として処分指導している。家屋及び宅地についてはしていない。
 ⑦次の事由により認められない。一つは世帯の自立更正を阻害。また保護受給中における資産形成につながる。さらに住民感情上の問題がある。ただし、例外的に認める場合もある。

⑧お金をどのような用途に充てたかによって、その限度額が異なる。自立更正の用途に供される額と認められた分を超えた額は、保護開始時にさかのぼり、交通事故賠償金の場合は事故発生時にさかのぼって、保護費を返還してもらう。
 ⑨生命が危惧されるとか社会通念上放置しがたいと認められる時には、窮迫保護として早急に保護開始する場合がある。
 ⑩香典は、収入認定していない。



武藤 威 議員



担い手確保をどのように

持続力のある組織運営を

戸沢藤一議員 品目横断的経営安定対策が19年度より実施されるに当たり、制度の具体性が見えてこないことや、経理の一元化への危惧、個人や集落間でも考え方に温度差があり農家は不安を感じている。

このような中で町では担い手確保にどのように推進していくのか伺う。また、5年後の法人化、経理の一元化など、組織設立後の経営指導についてや、円滑な組織運営をするために連絡協議会的な組織の設立も必要と思う。

町長 町は引き続き集落営農など支援チームを通じて課題解決に必要な情報などを提供し、そうした不安解消や温度差の解消に努めるとともに、関

係機関との連携を保ちながら担い手の確保、育成に努めたい。また、組織設立後の経理指導については、県や関係機関との連携のもと経理研修会を開催するなど支援策を講じ、持続力のある組織運営を支援したい。

さらに、連絡協議会の設立については、組織代表者の方々のご意見やご要望などを踏まえ検討する。

総合娯楽エリアに

質問 千畑地区で平成10年から実施しているカントリパーク事業は、19年度で事業が終了するが、大台野広場の野球場の利用者は極端に少なく、他の施設に変えるべきだ。知恵と工夫しだいでは、県南地区を代表する総合

娯楽エリアも可能と思うが。

町長 野球場は、現段階では現状維持することとし、今後、町全体で類似施設の活用及び再編整備について検討を行う。

総合娯楽エリアとしての位置づけについては、求める娯楽が年代や意識によって違いがあることから、利用者に癒しや活力を同時に与えられるエリアとして、県内に広く



戸沢藤一議員



駐車場に使われた大台野広場の野球場

認知されることを望んでいる。

相談窓口を

質問 県内の多重債務者は、2万人以上いるといわれ、これが原因で自殺する方も多いと思う。国でもようやく10月に貸金業の規制強化法案が提出された。これで即座に問題が解決されるものでもないと思うが、多重債務者と自殺予防の相談窓口を設置すべきだ。

町長 町としては、現在までにこれらに係る相談を受けてはいないが、これが自殺の原因となり得る問題でもあり、今後の対応について考慮しなければならぬ問題であると認識している。今年10月からスタートした日本司法支援センターや、秋田「いのち」の電話など関係機関等を活用してもらいながら、悩みを抱えた方々が適切な判断と対応をとっていただくよう指導などに努めてまいります。

町民参画で美の郷づくりを

郷土愛を育むうえで意義深い



吉野 久 議員

吉野 久議員 先日、町

民から桜の名所づくりの提案を頂いた。この提案のように、美の郷・美郷町をさらに充実させ、全国に発信することを願う町民も多い。今できるまちづくりに、この思いを活かせないか。

例えば、公共施設や公園の美観維持活動、花いっぱい運動やガーデニングコンテスト、植栽事業のアイデア募集など。身近な景観づくりには、町民の参画が必要だ。

共助・共生の理念に沿って、美の郷・美郷町を目指した住民参画の事業展



観光協会による清水周辺の清掃活動

開は、町と町民お互いが潤うものと考える。

町長 地域住民の思いを活かした美しいまちづく

りへの住民参画は、郷土愛を育むうえで意義深い。

町でも、町民の主體的参画促進のため、今年度から環境美化活動に補助金を交付している。来年度は、農業分野でも環境改善の共同活動へ支援する制度が始まり、国体協力会を立ち上げた環境美化活動を想定している。これらを総合し美の郷・美郷町を目指したい。

町長 協議会では、来年

志が低いと判断した。

検討委員会の議論を踏まえ、早期に具体的な構想

を明らかにしたい。

公共下水道—まちづくりに不可欠だ

見直しが休止決定ではない

吉野議員 議員協議会で、公共下水道計画の抜本的見直し報告されたが、この事業は、自然環境に配慮したまちづくりに不可欠だ。

認可区域内で、合併浄化槽への補助が可能か。可能としても、進捗が公共下水道に勝るか。

認可区域内での合併浄化槽補助は、下水道整備が7年以上見込まれない地域で可能だ。進捗は、人口密度の低い地域で合併浄化槽が勝るといわれている。当該地域の住宅建設は、この10年間わずかで主要指標への影響はない。加入率向上には、広報に上下水道コーナーを設けるなど意識喚起に努めている。アンケートは、未回答世帯の加入意

物販交流—積極的な取り組みを

一定頻度の提供を検討



2006・OTAフェスタ

深沢義一議員 過日開催された大田区、OTAフェスタには私自身も参加し、旧六郷町から培われてきた太い絆を感じると共に区長をはじめ、多くの方々の当町に対する温情を強く感じてきたとこ

ろである。

経済情勢が厳しい中、地域の活性化のためにも姉妹提携の大田区との連携を計りながら、具体的な販売システムの構築を進めるべきと考える。そのため物販推進課、あるいは推進班といった専従的職員の配置も必要と考える。

町長 人的交流及び物販を推進する部署の新設については、提案としては非常に意義深いものと認識しているが、年間を通してのフル稼働を前提とした場合、新たな部署の設置は難しいものと考え

る。現段階では、企画課と商工観光課、あるいは農政課、教育委員会など関係各課の連携強化を図りながら、町にとって望ま

しい環境を構築していく考えだ。

質問 堆肥センターの設置、あるいは集落営農の推進など、さまざまな農業支援の事業効果を生かすためにも、アンテナショップの開設など具体的な検討の考えは。

町長 一定の頻度で美郷物産を大田区民に提供できるような仕組みを構築していきたいと考えており、空き店舗状況などのリサーチもしている。

今後の進め方については、周辺事情並びに大田区における受け入れ状況など、さまざまな観点を加味し検討していく。



深沢 義一 議員

防災行政無線の早期設置を

国の状況、推移を把握し検討する

深沢議員 今年度策定さ

れた美郷町地域防災計画にも、防災行政無線設置についての検討が明記されている。加えて、昨秋、

合併特例債の活用などにより、ぜひ設置に向けた取り組みを望む。

防衛庁より、緊急情報を人工衛星経由で全市町村に一斉通報する「全国瞬時警報システム」の整備に向け、防災行政無線を備える市町村に受信装置を配備する方針が打ち出されたところである。

町長 国では国民保護のための情報伝達手段として、県や市町村に対して全国瞬時警報システム（通称Jアラート）整備を進めるようであり、防災行政無線の位置づけはさらに高まることとなる。そのため、防災行政無線整備については、国の予算化情報などを把握しながらその具体化についての検討を進める。

また有事に対する備えはもとより、平常時においても地域融和に結びつく情報提供システムとして大変有効な設備と考え

Uターン希望者の受け入れについて

受け入れ対策を促進していく



鈴木良勝 議員

鈴木良勝議員 団塊の世代といわれている方々が来年度から定年を迎える。その数全国でおよそ690万人とも言われており、その世代の中には定年後は故郷に帰り、自然環境に恵まれた場所です。小さいながらも田畑を耕しながらのんびりと第二の人生を送りたいといった構想を持っている方も少なくない。

そうした方々の受け入れに、全国の自治体が独自の呼び込み作戦を展開している。昨年県で実施した「ふるさと秋田」回帰に関するアンケート調査では、

「移住を考えている」、「将来考えたい」とする割合が3割を示しており、「ふるさと回帰」への潜在的な需要は非常に高いとの調査結果が出されている。

本年度は受け入れ先である、各市町村の独自の取り組みを促すため、市町村の「定住促進プラン」の策定支援から、就職・住宅・余暇活動・そして秋田の魅力などの複合的な情報を、年代や志向に応じた「パッケージ」にして情報提供するなど、本県への定住施策を展開するとある。

美郷町は、ホームページ

上に「空き家」・「空き地」情報などを掲載したり、「ふるさと会」を中心に働きかけているが、県が示す「定住促進プラン」に準じた施策、取り組みをどのように考えているか。

町長 町では、この「2007年問題」を地域活性化、定住促進のための大きなターニングポイントとしてとらえ、県内でいち早く定住対策事業としての「空き家・空き地情報提供事業」を実施した。

7月には関連情報を総合的に発信するため、総務省で開設した「交流居住ポータルサイト」、「交流居住の勧め全国田舎ガイド」に県内4市町村とともに参加して、町の空き家、空き地情報を全国に発信するとともに、10月13日から14日にかけて東京Jビルで開催された「ふるさと回帰フェア2006」に県内2市と



ふるさと回帰フェアより



ともに参加して、都会からの移住希望を図ったところである。

また、不在地主として首都圏に居住されている方へのアプローチとして、「ふるさと会」などを通じて空き家・空き地情報登録を積極的に呼びかけている。

今後も、こうした取り組みの必要性を重視し継続していくと共にさらに定住促進策について実効を期すために、就労・就農・余暇活動・生活関連情報などをあわせて発信し、取り組みの幅を広げていきたいと考えている。

子育て新税に反対せよ

内容を聞いてコメント

泉美和子議員 県では、

子育て支援と教育充実のためとして、新税を導入し、新たな負担を求めようとしている。県民一人当たり年間5600円から1万2000円を徴収する内容など、六つの選択肢を示して検討を始めている。これまでの県民との意見交換会でも、県民負担は反対という意見が大半を占めている。少子化対策は、国全体で大きな問題となっていることから、児童手当の



なかよし園の0歳児保育より



泉 美和子 議員

対象拡大や、乳幼児医療費の軽減、出産一時金の増額などの施策がとられている。子育てと教育は自治体の基本的任務の一つであ

ると思うし、納得できる

説明もない。小泉構造改革による大増税や社会保障制度改悪で、暮らしは大変なものとなっており、新たな税負担には反対だ。

この新税に対する町長の認識と県に対し、新税を創設しないよう求めるべきと考えるが見解を伺う。

町長 県が子育て支援と教育充実を推進する将来ビジョンの策定を検討していることは承知している。

子育てへの経済的支援や、基礎学力の向上、学校の再編計画など、今後10年間を見据えた施策や

事業、必要額、財政負担の考えなどが盛り込まれているようだ。

今は複数の選択肢を、関係者や一般県民に対して提示し、意見を求めている段階であり、町に対しては住民代表や行政関係者に対する説明会、意見交換会の開催依頼があったばかりで、基本となる

放課後の安全確保を

内容を検討する

説明がない中でのコメントや、賛成反対の意思表示は差し控えたい。ただ新税を目的税として導入するのであれば、一般財源と特定財源での業務の定義づけや税負担者と用途との関係整理、公平性の担保など、県民に対して十分な説明が求められると思う。

泉議員 共働きや一人親家庭の増加で、子どもが被害に遭う痛ましい事件が相次いでいる。厚労省と文科省が進める、放課後子どもプランを町ではどう実施しようとしているのか。対象年齢の拡大など。学童保育、放課後子ども教室、どちらも充実を望む。

町長 現在、町では小学校3年生以下を対象としている学童保育と、長期休業時に全学年を対象と

している子ども体験教室を実施している。学童保育には82名が登録しているが、施設の収容規模などの点から、拡大実施は困難であると説明している。体験教室も、長期休業対策であり、19年度も同様の内容で取り組む。しかし、環境の変化もあり、放課後の居場所づくりは重要な課題なので、アンケート調査や、関係者から意見を伺うなど、内容の検討をしている。

研修報告

県南3ヶ町村 議会議員連絡協議会発足

去る11月17日、当町千畑交流センターにおいて羽後町、東成瀬村、そして当町の県南2町1村の議員連絡協議会の設立総会が開催されました。

総会では、議会活動の向上を計ることを目的とした会則を決議しました。

会長に、美郷町 伊藤福章議長。

副会長に、羽後町 佐藤安治議長。

同じく副会長に東成瀬村 冨田義行議長を選出し、今後はキラリと光る町村を目指し、研修を重ねていくこととしました。



広報特別委員会 視察研修

10月23日・24日、町村議会報全国コンクールにおいて優秀賞を受賞している、宮城県大和町・岩手県金ヶ崎町の2町を研修しました。

大和町では、小学4年生が読んでも理解できるような文章内容を基本とし、金ヶ崎町でのインパクトのある写真やお知らせ版の発行など、とても参考になる充実した研修でした。



陳情

採択しました

■秋田県の医師不足を解消し、地域医療の確保を求める陳情書

秋田県医療労働組合連合会

執行委員長 中村秀也

■「格差社会」を是正し、いのちと暮らしを守るために社会保障の拡充を求める陳情書

秋田県社会保障推進協議会

会長 渡辺 淳

■「格差社会」を是正し、いのちと暮らしを守るために庶民増税の中止を求める陳情書

秋田県社会保障推進協議会

会長 渡辺 淳

■療養病床の廃止・削減と患者負担増の中止等を求める陳情書

秋田県社会保障推進協議会

会長 渡辺 淳

■森林・林業・木材関連産業政策と国有林野事業の健全化を求める陳情書の提出について

秋田県林活議員連盟連絡協議会 会長 津谷永光

継続審査となりました

■米価下落に影響を及ぼす低品位米と政府備蓄米の流通見直しを求める陳情書

生き物共生農業を進める会

代表 今野茂樹

議会の動き

10月 23日 議会広報特別委員会視察研修会（10月24日）

11月

14日 大仙市・仙北市・美郷町 議会議員協議会

17日 県南3ヶ町村議会議員連絡協議会

20日 議会全員協議会

12月

6日 議会運営委員会

12日 議会広報特別委員会 第8回議定会

13日 総務常任委員会（12月15日）

15日 教育民生常任委員会

15日 産業経建常任委員会

15日 議会運営委員会

15日 議会広報特別委員会

15日 平成19年1月

9日 議会広報特別委員会

12日 議会広報特別委員会

キシリーズ ラリ 美郷人 VOL.5



心も体もすっきり

高橋 芳夫 さん
(美郷町千畑在住)



太極拳講座より

片足で立っていられたかった人が、今では30秒以上立てるようになった。有酸素運動なので、生活習慣病の予防になる。体のゆがみを直すので姿勢がよくなり、肩こり、足、腰の痛みがなくなる。演じている時の心の動きがなんとも言えない。

美郷町一丈木に住む高橋芳夫さん(67)は、若い時から多才な趣味を持っているが、今一番夢中になっている太極拳の魅力について熱く語る。

平成13年から始め、現在初段で初心者に指導もできるようになった。本場中国では、50年やっていても、一人前ではないといわれる程奥の深い太極拳は、一度に何人にも指導ができないし、段位や指導員資格など上には上がらない、あきないで一生続けることができる。

現在千畑地区を中心に仲間は90名を超えているが、秋のわか杉国体の開会式にマスメームで美郷町として参加したいので、六郷地区、仙南地区の人たちにも教室への参加を呼びかけている。

高橋さんは、川柳グループ。花清水代表、真木真昼を美しくする会県登録保護員としても活躍している。

■問合せ先
千畑交流センター
TEL 0187-85-3270

編集後記



穏やかな平成19年の幕開け、新鮮な気持ちで迎えた。雪が少なく楽な反面、スキー場など、困っている所もある。ほどほどが良いのだが。

秋田わか杉国体の年。スポーツの祭典で数多くの感動やドラマが展開されるだろう。

町民参加で成功させよう。

農業も大きな転換期の年に入る。「集落営農」や「農地・水・環境・保全向上」事業など、地域、集落が一体となり取り組んで行かねばならない。

今まで以上に和を大切に!!希望をもって「猪突猛進」。前進あるのみ。

(杉澤 隆一)

- 議長 伊藤 福章
- 広報委員長 吉野 久
- 同 副委員長 杉澤 隆一
- 同 委員 熊谷 隆一
- 同 委員 鈴木 良勝
- 同 委員 森元 淑雄
- 同 委員 深沢 義一

次回定例会は、2月下旬の開会を予定しています。傍聴を、お待ちしております。